

ヤングケアラー支援 深谷市の取組状況

1. 国・埼玉県・深谷市のヤングケアラーの実態

アンケートについては、国や埼玉県の調査と並行しながら独自の実態調査を実施しました。調査は質問項目を厳選したため、単純に国や県と比較はできません。ただし、深谷市は個別の聞き取り調査を含めた独自の3段階調査により、ヤングケアラーの実態により迫っていると推察できます。

ヤングケアラーの実態に関する調査研究

調査実施年度	国		埼玉県	
	対象	世話をしている家族が「いる」と回答した割合	対象	世話をしている家族が「いる」と回答した割合
令和4年度				
令和3年度	小学校6年	6.5%		
令和2年度	中学校2年	5.7%	県内国公私立 高校2年生	4.1%
	全日制高校2年	4.1%		

*第1段階：生徒のFormsによるアンケートへの回答 第2段階：担任によるチェック(アセスメントシート) 第3段階：個別の聞き取り調査

表1 深谷市独自のヤングケアラーアンケート

調査実施年度	深谷市		
	対象	世話をしている家族が「いる」と回答した割合	(内)*市独自の3段階調査の結果ヤングケアラーの可能性が高い生徒
令和4年度	中学校1年	10.1%	1.48%
令和3年度	中学校1～3年	8.3%	0.76%
令和2年度			

2. 深谷市独自の3段階調査による詳細な実態把握 (別添資料あり)

【令和4年度の例】

表1は世話をしている家族が「いる」と回答した割合ですが、世話をしている=ヤングケアラーではありません。世話をしていると回答した中には、過度な負担ではないお手伝いレベルの世話も含まれているため、深谷市は独自の3段階調査により、ヤングケアラーの可能性が高い生徒を明らかにしました。

- 第一段階：アンケート調査 (1155人)
- 第二段階：担任による個別チェック (117人)
- 第三段階：個別の聞き取り調査 (52人)

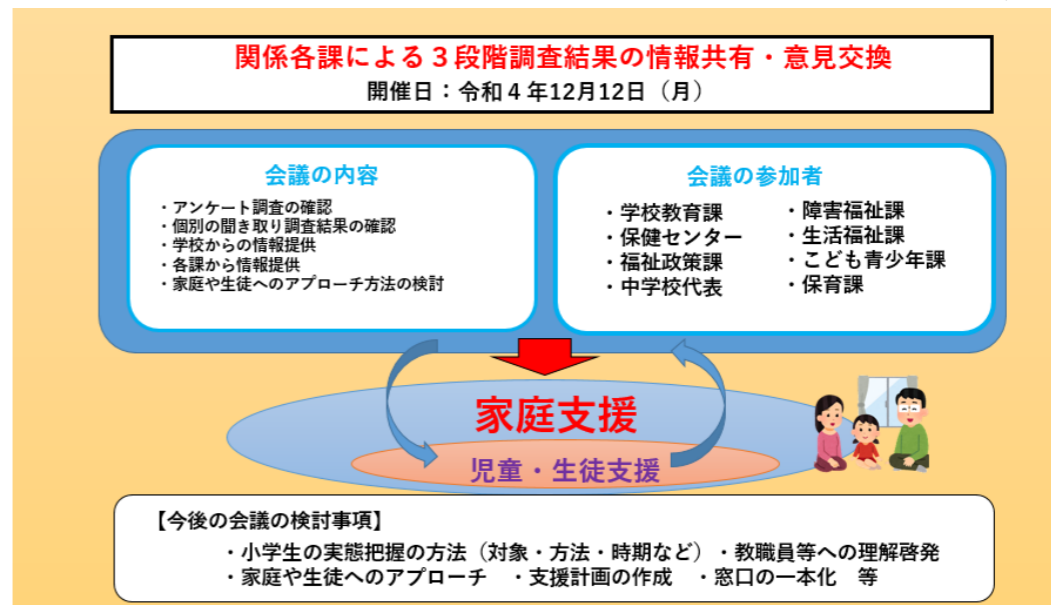
3段階調査の結果、令和3年度は27名(0.76%)、令和4年度は**18名(1.48%)**がお世話の負担が大きく、学校で見守る生徒、SSWによる個別相談が必要な生徒、関係機関につなげる必要のある生徒となります。

令和4年12月22日 朝日新聞



3. 関係各課による3段階調査結果の情報共有・意見交換

図1



アンケート調査や個別の聞き取り調査の結果を教育部・福祉健康部・こども未来部の3部7課所による情報共有及び意見交換を令和4年12月12日に行いました。

- ・アンケート調査の結果、個別の聞き取り調査の結果の情報共有
- ・学校による家庭や本人の状況等の説明 ・支援方針の検討

4. アンケート調査(追跡調査)→関係各課による情報共有→実際の支援1年間の流れ

- 7月→中学校1年生にiPadによるアンケート調査の実施
- 8月→市教委によるアンケート調査の分析
- 9月→担任による個別チェック・個別の聞き取り調査
- 10月→市教委による個別の聞き取り調査の集約
→昨年度の追跡調査の実施
- 11月→関係各課へアンケート調査・個別の聞き取り調査結果の報告
- 11～12月→**関係各課による情報共有・意見交換(図1)**
- 12月～実際の支援の開始
- 1月～支援状況の確認

5. ヤングケアラー支援に係るこれまでの取組状況

- ・障害福祉課、相談事業所による保護者との面談
- ・こども青少年課による生徒の情報提供(要対協等)
- ・SSWによる家庭訪問(食事の配給)、生徒との面談等
- ・社会福祉協議会による周知活動、LINEによる子供の相談
- ・学校教育課による調査及び教職員への理解啓発
- ・学校による見守り、子供の相談